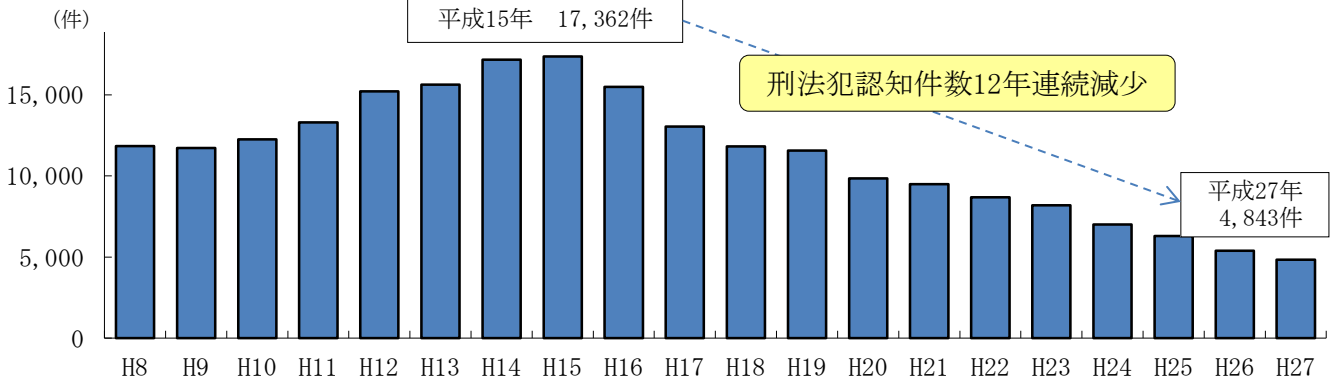


1 刑法犯

(1) 刑法犯認知件数（過去20年間の推移）



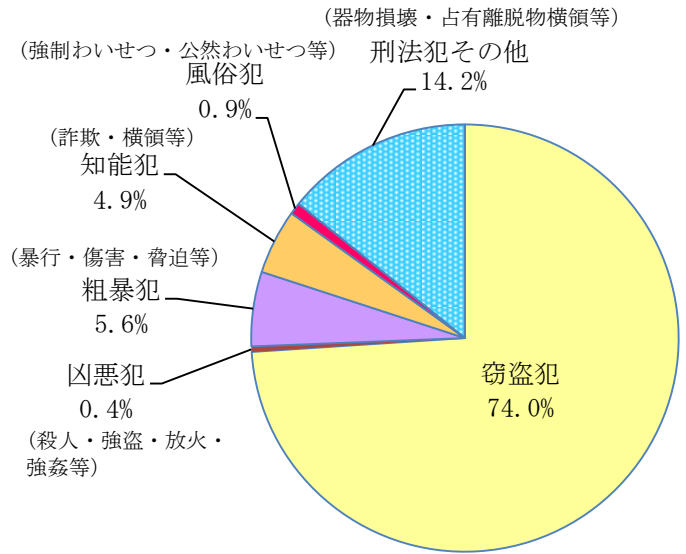
刑法犯認知件数は、平成10年から15年にかけて増加し続け、同年には1万7,362件に達しました。しかし16年からは減少に転じ、27年中は4,843件と、前年より541件（10.0%）減少しました。

※「刑法犯」とは、特に断りのない限り、道路上の交通事故に係る危険運転致死傷罪、業務上（重）過失致死傷罪及び自転車運転過失致死傷罪を除いた「刑法」に規定する罪並びに「爆発物取締罰則」等、13の法律に規定する罪をいう。

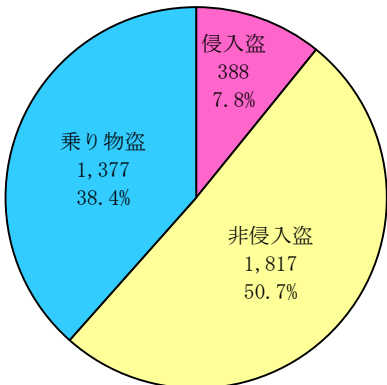
※「認知件数」とは、警察において発生を認知した事件の数をいう。

(2) 刑法犯の罪種別（前年対比）

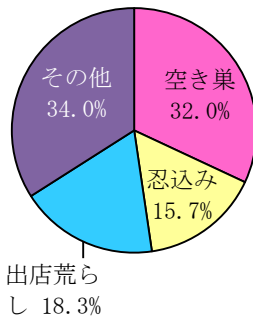
	認知件数		増減状況	
	平成27年	平成26年	増減数	増減率
刑法犯	4,843	5,384	-541	-10.0%
凶悪犯	20	33	-13	-39.4%
粗暴犯	273	343	-70	-20.4%
窃盗犯	3,582	3,960	-378	-9.5%
知能犯	238	230	8	3.5%
風俗犯	43	32	11	34.4%
その他	687	786	-99	-12.6%



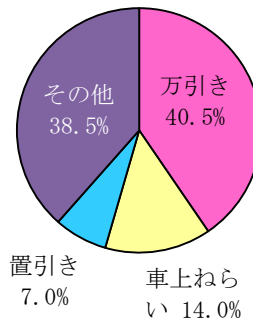
【窃盗犯の内訳】



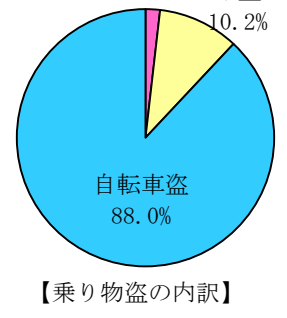
【侵入盗の内訳】



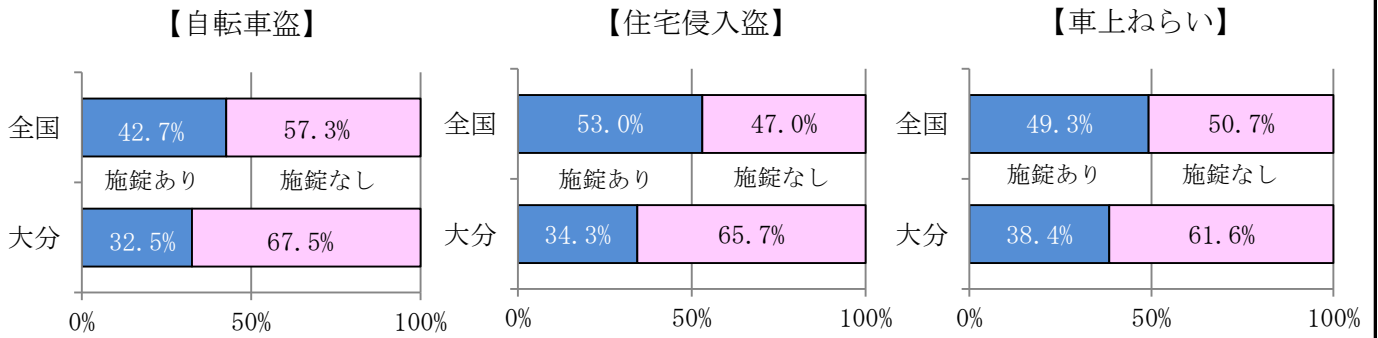
【非侵入盗の内訳】



自動車 オートバイ盗

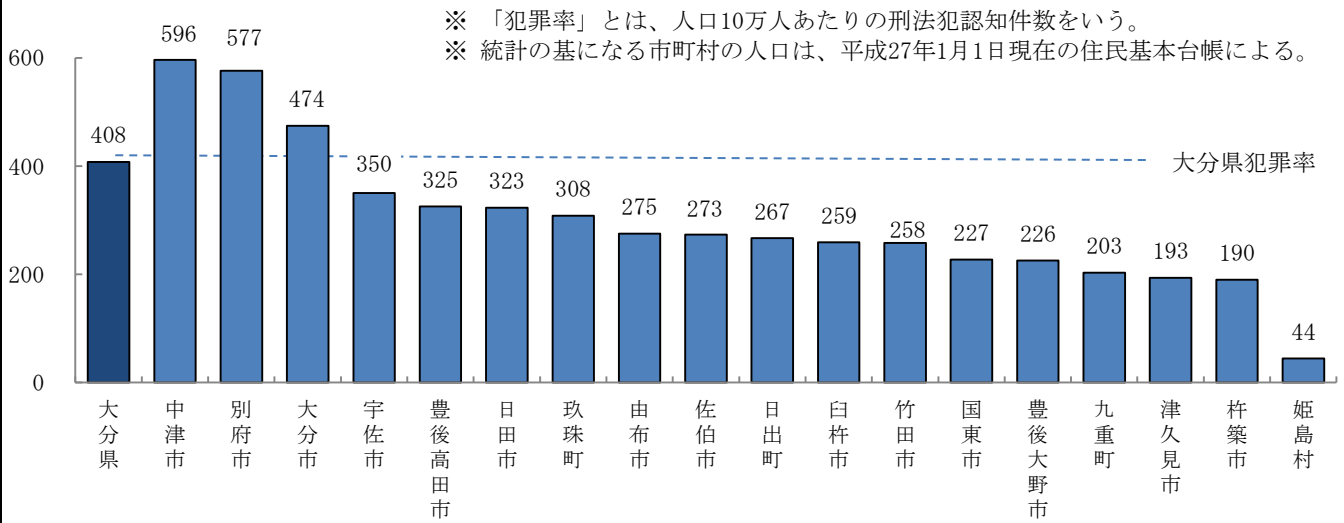


(3) 被害時の施錠状況



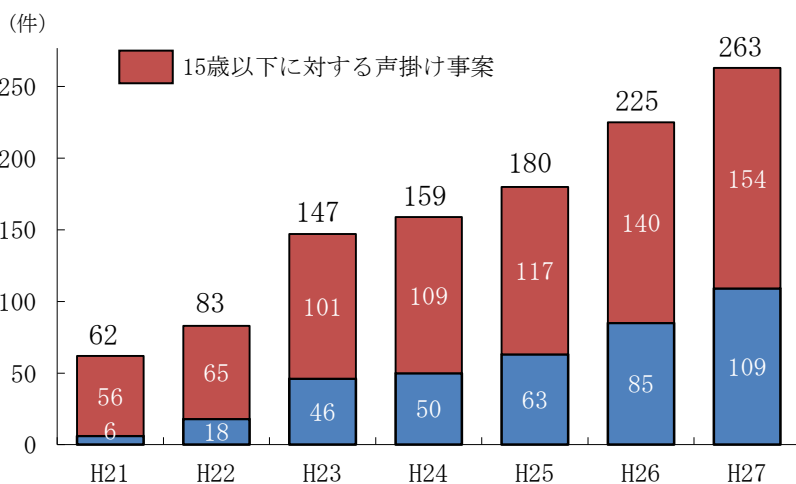
大分県の施錠率（犯罪被害時における施錠実施率）は、全国平均よりも低い状態です。県民の防犯意識の高まりにより施錠率が向上すれば、施錠により防犯効果が高まる罪種の減少が期待できます。

(4) 市町村別犯罪率

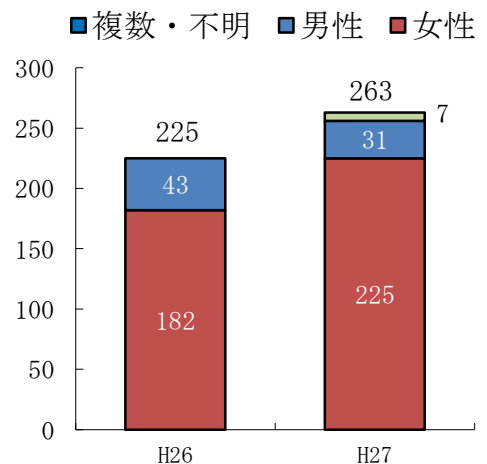


2 子供・女性に対する声掛け事案

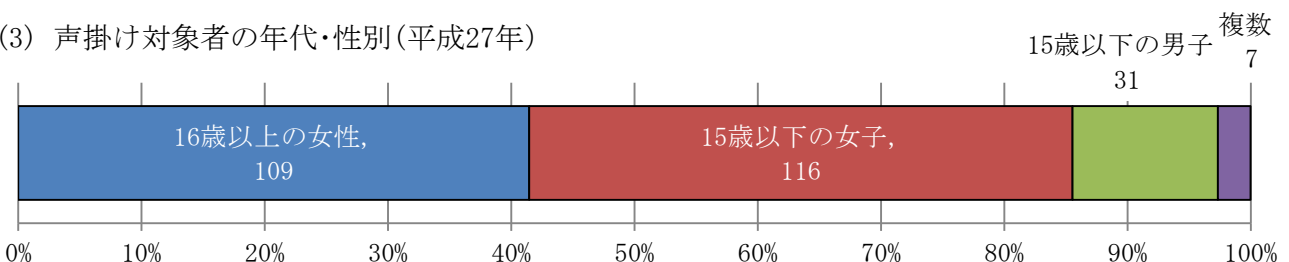
(1) 声掛け事案の推移



(2) 声掛け対象者の性別

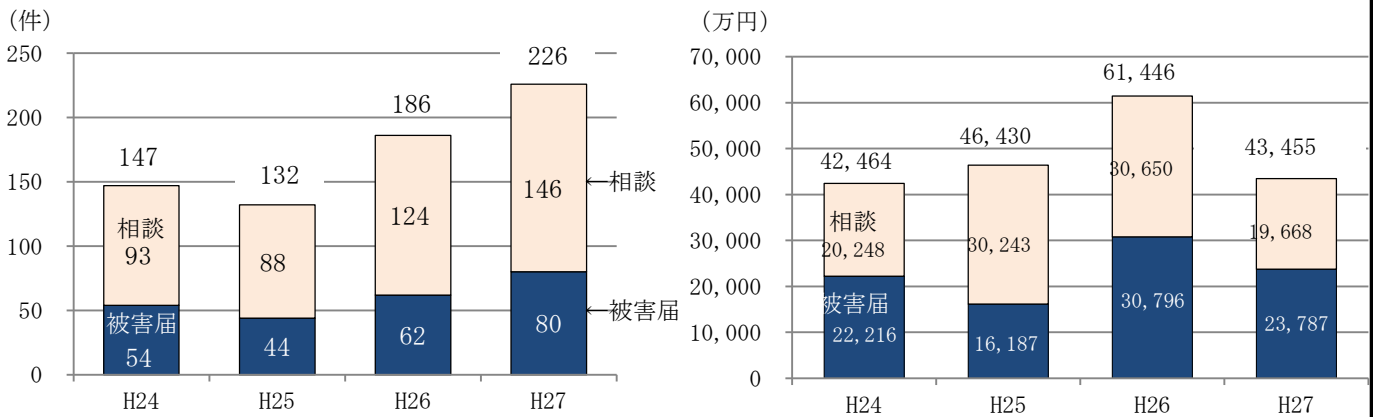


(3) 声掛け対象者の年代・性別(平成27年)



3 特殊詐欺の現状

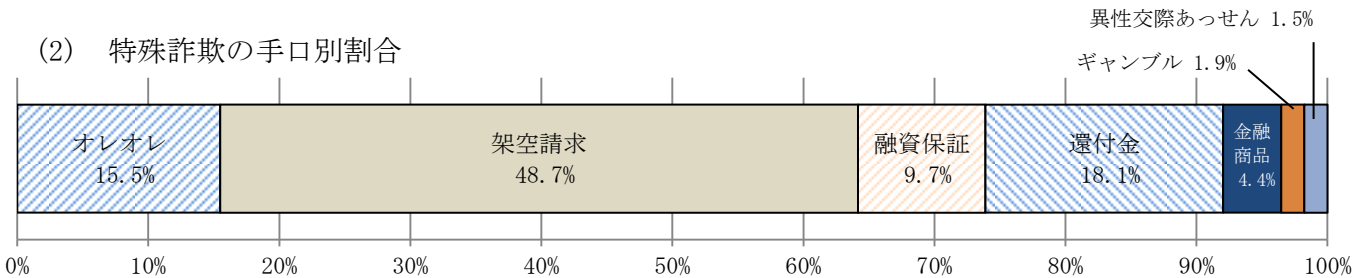
(1) 被害件数・被害額の推移



大分県警察では、特殊詐欺の被害実態を県民の皆様にご覧いただくため、平成24年から、被害届の受理件数と相談で受理した既遂被害の件数を併せて計上しています。

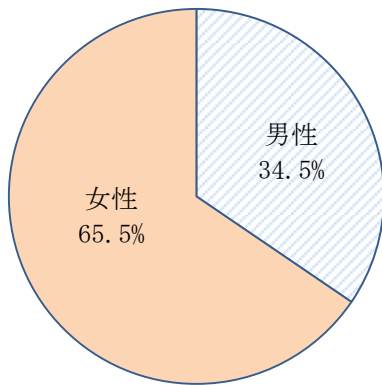
平成27年は、被害額は4億3,455万円、前年対比マイナス1億7,991万円と減少しましたが、被害件数は226件、前年対比プラス40件と大幅に増加しました。

(2) 特殊詐欺の手口別割合

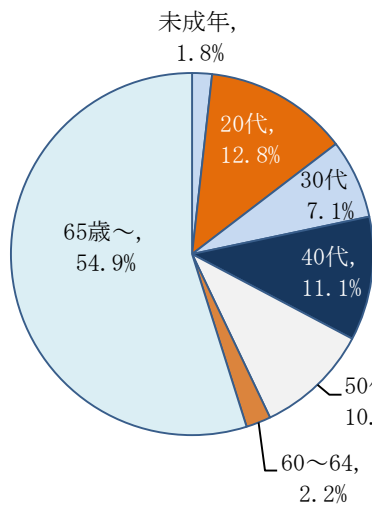


(3) 特殊詐欺被害者の状況

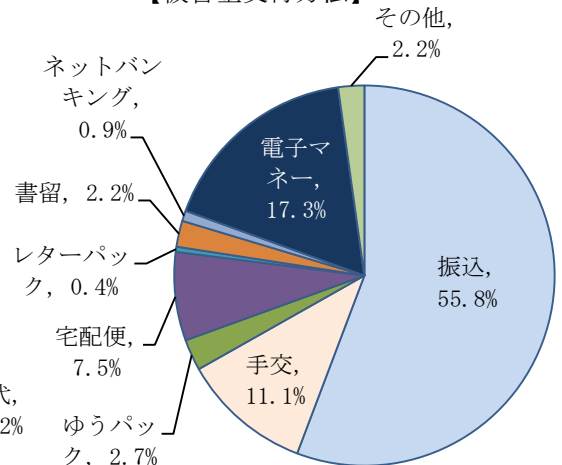
【男女別】



【年齢別】



【被害金交付方法】



特殊詐欺被害者の年齢別では、高齢者が半数以上（54.9%）を占めています。また、昨年は各年代で被害に遭うアダルトサイト料金請求名目の架空請求詐欺が多発し、高齢者以外の年代の被害割合が前年に比べて増加しています。

被害金交付方法では、「電子マネー（プリペイドカード）」による支払いを求める架空請求詐欺が急増し、全体の17.3%を占めています。

また、犯人グループの一員が、被害者と接触し、現金の交付を受ける「手交型」の割合も増加しました。



大分県警察本部
OITA PREFECTURE POLICE